

委員会報告

県立神石三和病院 存続対策特別委員会

庄原市・西城市民病院を視察

議会の「県立神石三和病院存続対策特別委員会」は、本年二月十五日に、神石三和病院存続のあり方について研修するため、庄原市の西城市民病院の取り組みについて、先進事例の調査を行いました。

公立病院の役割とあり方について

西城市民病院は、病床数百四十四床で、診療科



西城市民病院

目は、内科、外科、整形外科、婦人科、精神神経科、放射線科、理学療法科を備え、医師は常勤が七名、非常勤が五名、職員数が百四十五名（嘱託、非常勤を含む）で運営されています。

公立病院の役割を果たすため、病院経営の健全化を前提に、地域包括ケアを中心とした特色ある病院づくりを推進。

1、在宅医療の充実
訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、在宅介

- 護支援
2、精神・認知症医療の充実
3、専門スタッフの派遣
4、健診機能の充実等を取り組んでおられます。

赤字経営から黒字経営に至る経過

平成七年に、国から経営の健全化を図るよう指導を受け、財政再建を図った。

経営健全化期間を平成七年～十一年とし、不良債務解消計画と経営指標の目的を設定、職員数の削減、外部委託の推進、入院率の向上、患者一人当たりの診療収入の向上を実施、これにより十一年度実績で赤字を解消。

◎収入増加の主な要因
病院の外側改装と医療器具の整備により、患者の増加、病床率の向上、医療機関の連携、

健康教育・在宅福祉の取り組み、交通対策の確立、新看護の導入、午後診療の実施等。

保健福祉総合センター「しあわせ館」

西城市保健福祉総合計画「西城市あわせストーリー」で、保健・医療・福祉・介護の機能が効果的に連携できる拠点として「しあわせ館」が建設されている。運営の基本理念を、元気づくりの発信施設として有効に活用されている。

特徴は、建築段階から住民の要望を入れ、名前を公募で決められ、住民参画の手法で運営され、多くのボランティアが協力している。

保健師も積極的に地域に進出し、健康づくり、相談活動に大きな役割を果たしている。

町村議会広報 全国コンクールで奨励賞

神石高原町議会広報「みんなの町議会」が、全国町村議会広報コンクールで、奨励賞を受賞しました。
また、広島県町村議会



議会広報広聴調査特別委員会